

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 2 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23520215

研究課題名(和文)平曲伝承資料の基礎的研究

研究課題名(英文)A Fundamental Study on the Documents of the Transmiision of the Heikyoku

研究代表者

鈴木 孝庸 (SUZUKI, Takatsune)

新潟大学・人文社会・教育科学系・フェロー

研究者番号：90143742

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：臺灣大學圖書館特藏組所蔵・平曲譜本に関する研究成果。この譜本は、波多野流譜本一点(零本二冊)、平家正節二点(零本四冊、零本十五冊)、正節譜による平家物語一点(零本三冊)である。虫損等甚だしかったため、特藏組における修復の支援を行った。修復の後、詳細な閲覧調査を行い、波多野流譜本と平家正節に関してほぼ終了した。調査と併行して臺灣大學圖書館によるこれらの譜本の影印刊行企画に関する話しあいを行い、三回に分けて刊行することが決まった。国内の平曲伝承資料の調査および写本等の入手。8所蔵機関の平曲譜本を調査した。平曲譜本4点、當道資料4点を手に入れた。

研究成果の概要(英文)：A study on the Heikyoku Scores at the National Taiwan University Library. The scores are as follows; a score of Hatano School (2 books), the Heike Mabushi (4 books), the Heike Mabushi (15 books), and the Heike Monogatari (3 books). Since all the documents were found in bad condition, we (NTU library and I) had to repair before researching. As I expand the study and after a couple of discussion with NTU library, we decided publishing. A study on the documents of Heikyoku in Japan. Researched the Heikyoku scores in 8 libraries. Got 4 scores and 4 documents of blind men's guild.

研究分野：日本文学

キーワード：平家物語 平家琵琶 平曲 平曲譜本 平家正節 前田流 波多野流 當道資料

1. 研究開始当初の背景

本研究は、平家物語の独特の文章の成り立ちが、平曲(平家琵琶)として長く語り継がれたことが背景にあると、明治以来指摘されながらも、ほとんど具体的内実的な検討がなされなかったことが出発点である。

私は、これを考究すべく、平曲の実地演誦を、橋本敏江師について伝受を続けたことをもとに、平曲譜本のうちの平家正節の譜号の読み方に習熟した。

これと併せて、各種平曲譜本をできる限り調査整理することが、基礎的作業として必要であると考えた。

同時に、平曲の伝承について、平曲指南書、盲人資料(當道資料)も調査整理する必要があると考えた。

2. 研究の目的

(1)本研究は、平曲(平家琵琶)の伝承に関わる文献資料の調査整理を主たる目的とした。

(2)平曲伝承文献資料は、
平曲譜本
平曲指南書
當道資料
である。

(3)併せて、平曲の実地の演誦伝受に関わることも、その基盤であり必須であると位置づけた。

3. 研究の方法

(1)平曲伝承文献資料の所蔵機関それぞれの調査を行うこと。

(2)必要性重要性を勘案して、複写を得ること。

(3)古書市場に関連資料が出た場合に、購入すること。

(4)上記によって収集した資料に関して、整理し、場合によっては考察を加え、公表すること。

(5)橋本敏江師について、平曲演誦に関して、伝受、知見を得ること。

(6)公的な場で、演誦を行うこと。

4. 研究成果

(1) 臺灣大學圖書館特藏組蔵平曲譜本に関する研究。

旧台北帝國大學蔵平曲譜本であるが、三種四点である。

- ・波多野流譜本(二冊)
- ・平家正節(四冊)(十五冊)
- ・平家物語(三冊)

保存状態が劣悪であったが、臺灣大學圖書館特藏組が補修を計画し、私がこまかな支援(字配り、墨譜の位置等の判定など)を行って、きれいに修復された。

あらためて臺灣大學圖書館特藏組蔵平曲譜本を閲覧点検した結果、日本にある同類の平曲譜本と比べて、それぞれ特

色のあることが分かった。

上記の結果と、臺灣大學圖書館がこれまで、同館所蔵貴重書を影印刊行してきた実績をもとに、話し合いを重ねた結果、同館所蔵平曲譜本を三回に分けて影印出版することに決まった。

解説は私が主に担当し、台湾むけの中国語訳はハルビン師範大学・孫暘副教授が担当することになった。

(2) 本研究期間中、国内の調査。

國學院大學図書館 『平家』(1冊、波多野流譜本)、『平家正節』(35冊)、『平家正節』(4冊)。

酒田市立光丘文庫 『平家曲集』(一句1冊仕立て。179句182冊存)。

竹田市立図書館 『平詠吟譜』(1冊)。

小浜市立図書館 『平曲』(2冊。豊川本)

高山まちの博物館 『月見』(1冊。正節)

弘前市立図書館 従来知られていなかった譜本に関する情報があった。

『八坂流月見 替節 琵琶弾法』(1冊)

富山市立図書館山田孝雄文庫 『平家正節』(首巻。1冊)、『八坂流訪月』(1冊)、『座中秘書』(1冊)、『拾要録』(1冊)。

国文学研究資料館 『平家正節 一上』(一冊)。

(3) 平曲譜本の入手。

『平家正節』一上、一下、首巻、小秘巻(4冊)

『平家正節』灌頂巻 撥譜、正節抜書(2冊)

『平家正節』四上、十一下(2冊)

『平家正節』七下(1冊)

(4) 當道資料の入手。

『平家勸文録 當道要抄』(1冊)

『當道略記』(1巻)

『當道略記』(1冊)

『當道式目』(1冊)

(5) 平家物語の入手。

『平家物語』一、二、三、九、十一、十二、灌頂巻(6冊)一方系写本。

(6) 平曲譜本を通して、平家物語の表現または平曲伝授に関する研究。

「息継ぎ点」に関する研究。従来注目されたことはなかったが、波多野流譜本や平家吟譜などには丁寧に記され、平家正節には散見される程度の、所謂「句読点」を、演誦の際の琵琶の間奏撥の可能性もあるものの、「息継ぎ点」と措定し、晴眼者が譜本を見ながらの演誦に資する「点」というだけでなく、盲人への「平家物語のこぼ」の伝授に関わる

可能性もあるのではないかと考えた。そのためにも、まずは比較的「点」の記入の少ない『平家正節』の実態を精査すべきであると考え、最初の調査の結果報告を行った。

平曲を実際に聴かせる体験を通じて、気がついたことからきっかけとして、平家物語の表現の問題(文章として、または語りとして)を取り上げ、いくつかの考察を行った。きっかけとなったのは「小宰相」「経正都落」「横笛」「那須与一」である。これらの演誦体験を通じて、ひとまとまりの語りにおける「終止感」の問題、ごくごく基本的な音の抑揚で形成されている口説 という曲節にまれに現れる「シヨリ」という演誦技法の問題、また平家物語全体を見渡しての「武装描写」の音楽としての扱い方などを考えた。

(7) 當道資料に関する研究。

既に手許にあった資料『妙音菩薩抄』2点が、書名はこれまでこの方面の研究でも知られていなかったが、『妙音講縁起』の異本と言うべき資料であると判定し、翻刻を附して、資料紹介を行った。

(8) 平家物語の享受史または演誦史に関する研究。

「琵琶法師の歴史」と言ってもよい。平家物語誕生以前から琵琶法師の存在は確かめられ、琵琶演奏と物語朗唱が古くから合体していたのだという通説を見直し、平家物語以前の琵琶法師は、琵琶演奏と歌はあったものの、「物語」演誦の確証は得られていないこと、またしばしば平家語りが大道藝と同様に見なされることに対する訂正意見などを含み、古代から中世末までの平家物語演誦史をまとめて『平家を語る琵琶法師』として公刊した。

(9) 平家物語の翻字。

甲南女子大学蔵本『平家物語』の翻字入力を継続的に行った。巻第八「猫間」から始めて、巻第十一「志度合戦」まで済んだ。

(10) 平曲の伝受

東京在住の橋本敏江師(館山甲午師の高弟)について、私は昭和55年(1980)1月から平曲を教わってきたが、ほぼ終了段階に至った。橋本師からは、後世に伝えよと言われていた。

(11) 平曲の演誦。

公的な場での演誦である。

奉納演誦 下関・赤間神宮。大原・寂光院。

教養講座等 國學院大學図書館「学びへの誘い」、荻野検校顕彰会「平曲鑑賞会」、「平家物語のつどい」平家琵琶鑑賞会など。

授業等 國立臺灣大學、天津外国語大学など。

「一部平家をめざして」物語順に全巻全句を語る計画。神奈川県立横浜翠嵐高等学校を会場にして、入場無料で始めた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

鈴木孝庸、平家物語の武装描写と平曲、新潟大学 人文科学研究、査読無、第138輯、2016、23-38

鈴木孝庸、當道の『妙音菩薩抄』—『妙音講縁起』の一異本—、新潟大学国語国文学会誌、査読無、第55号、2015、30-38

鈴木孝庸、平曲における感情表現—シヨリということ—、新潟大学 人文科学研究、査読無、第136輯、2015、1-18

鈴木孝庸、平家語りにおける終止感について—平曲 下り 中音 の墨譜の検討—、新潟大学 人文科学研究、査読無、第134輯、2014、25-43

鈴木孝庸、平曲譜本『吟譜』の息継ぎ点、新潟大学 人文科学研究、査読無、第132輯、2013、1-14

鈴木孝庸、平曲の声・息継ぎの伝授、新潟大学 人文科学研究、査読無、第131輯、2012、1-26

鈴木孝庸、譜本としての『平家正節』—口伝とその視覚化—、愛知県立大学 文字文化財研究所年報、査読無、第5号、2012、89-98

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計1件)

鈴木孝庸、新潟日報事業社、平家を語る琵琶法師(ブックレット新潟大学 63)、2013、70

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 孝庸 (SUZUKI, Takatsune)
新潟大学・人文社会・教育科学系・フェロー
研究者番号：9 0 1 4 3 7 4 2

(2) 研究分担者 なし
()

研究者番号：

(3) 連携研究者 なし
()

研究者番号：